

達成度(評価)
A: 十分達成できている
B: おおむね達成できている
C: やや不十分である
D: 不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>前年度は、学校評価と人事評価だけでなく、校内研究や学力向上の取組なども一体的に取り組むことができたこと、学校として取り組むことを明確にすることができ、おおむね目標は達成することができたと考えている。</li> <li>今年度も取組の方向性は大きく変えることなく、特別支援教育の充実、特別活動の充実などを下支えとしながら、児童の自己有用感を高め、着実な学力向上を図ることができようしていきたい。</li> <li>今年度のキーワードを「前進」とし、全ての取組において、前年度より一歩前進できるように創意工夫して取り組んでいきたい。また、授業力、指導力等に関わっても、日々の前進できるように取り組んでいきたい。</li> </ul>
2 学校教育目標	「元気いっぱい 笑顔いっぱい とともに学び合う 多良っ子の育成」を実現する。

3 本年度の重点目標	<p>かしくく(=ともに学び合う) 課題を「自分事」としてとらえ、他者と関わりながらよりよく解決を図ろうとする子ども やさしく(=笑顔いっぱい) 感性が豊かであり、多様な価値を認め、感謝と思いやりの心を体現する子ども たくましく(=元気いっぱい) 心身の健康を心がけ、元気で生き生きと活動し、粘り強く取り組む子ども</p> <p>→主に「学力の向上」 →主に「心の教育」 →主に「健康・体づくり」</p> <p>重点目標② 特別支援教育の充実 重点目標③ 特別活動の充実 重点目標④ 地域・保護者に開かれた学校づくり 重点目標⑤ 働きやすい職場環境づくり</p>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標

重点取組	取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
				進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教職員の割合が90%以上。	●学力向上対策シートの共通実践を校内研究の取組と関係させることで、マイプランの取組を促進し、成果指標の達成を目指す。	A	●校内研修においてマイプランの中間評価や進捗状況の報告会を行うことで、各自の取組の進捗と後期への意欲付けができた。 ●マイプランにおける「授業づくりのステップ1・2・3」の実施手帳で、ステップ2以上の達成率が64%であった。後期は、話し合う活動における取組を充実させた。	A	●授業づくりのステップ1・2・3の実施手帳において全教職員がステップ2以上を達成できた。校内研究において、算数科に限らず全教科で「授業づくりのステップ1・2・3」を意識した授業づくりに取り組んだ成果と考える。 ●ペアやグループによる話し合う活動に重点を置いて校内研究に取り組んだことで、教科だけでなく学級活動においても意欲的に話し合うことができた。	A	特になし	山崎(学力向上対策コーディネーター) 大石(指導法改善)
	○多良小学校教育の質的改善	○県調査やCRTIにおいて、前年度の正答率、ポイントを上げる。 ○教職員アンケートで「ペアで取り組む授業研究は自らの指導力向上に役に立ったか」及び「学校評価と結びつけることで、校務分掌の取組の質が向上したか」について肯定的に回答した教職員の割合が80%以上。	●「授業づくりのステップ1・2・3」/VOL2を参考に、特に「書く活動」「話し合う活動」の質的改善に取り組む。全ての教員が年間4回のペアで取り組む授業研究を行って検証をする。	A	●教職員アンケートで「ペアで取り組む授業研究は自らの指導力向上に役に立ったか」について肯定的に回答した割合は100%であった。 ●ペア研の事後アンケートの、「書く活動」「話し合う活動」を適切に行っていたかという質問に対して、ほとんどの教職員が肯定的な回答をしている。	A	●県調査において、6年は、前年度の結果を下回ったが、4年と5年は上回った。 ●教職員アンケートの、「ペアで取り組む授業研究は自らの指導力向上に役に立ったか」について肯定的に回答した割合は91.7%であった。 ●教職員アンケートの、「学校評価と結びつけることで、校務分掌の取組の質が向上したか」について肯定的に回答した割合は100%であった。	A	●多良小学校における「ペアで取り組む授業研究」は教員一人一人の課題の解決に向かう手立てとしてとてよいと思う。継続することによってよりよい成果につながるのではないかと。	横山(研究主任) 武富(研究副主任) 大石(指導法改善)
	○児童の読書の質・量とコミュニケーション力の育成	○児童アンケートで「読書をするのは楽しいか」について肯定的に回答した児童の割合が80%以上。 ○児童アンケートで「外国語の授業で話したり聞いたりする力が付いたと思うか」について肯定的に回答した児童が70%以上。 ○「英語を使って質問したり自分の気持ちを伝えようとしている」「他国やその文化について知りたと思うか」について肯定的に回答した児童80%以上。	●児童の読書の質と量を向上させるために、「おすめの本」の完読や家庭での読書を推奨する取組を行う。 ●魅力的な図書室づくりを通して、児童の読書への意欲を一層高める。 ●図書の貸し出し状況などを学校便りや図書館便りなどで児童や保護者に伝え、読書への心を高める。 ●外国語活動、外国語科の授業の充実を通して、児童のコミュニケーション力を育成する。	●静かな雰囲気の中で、朝読書に取り組むことができた。図書委員会の呼びかけ等により、週末は本を持ち帰って家庭でも読書をする児童が増えた。 ●図書館便りや貸し出し状況の提示などで、読書の量や質を向上させ、読書への心を高める。しかし個人差があるので、読書への関心を高める手立てを今後考えて取り組んでいきたい。 ●外国語活動、外国語科の授業では、児童が進んで話したり聞きたいと思える活動を仕組み、授業改善を図っている。	A	●児童アンケートで「読書をするのは楽しいか」について肯定的に回答した児童の割合は86%であった。 ●委員会による図書室のイベントや担任等の呼びかけで、昨年度に比べ、「おすめの本」の完読や家庭での読書が増えた。 ●英語を使って質問したり自分の気持ちを伝えようとしている」について肯定的に回答した児童の割合は77.6%、「他国やその文化について知りたと思うか」については76.1%で、いずれも指標にはわずかに届かなかった。今年度、実施したイングリッシュデイの外国人講師招聘などの取組を今後も増やすなどして、指標の達成を目指す。	A	特になし	井上、林(図書館教育) 江口、(橋田)(外国語教育)	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○児童アンケートで「人権集会で人権について深く考えることができたか」について肯定的に回答した児童の割合が80%以上。 ○教職員アンケートで「年間を通して豊かな心を育む道徳の授業を実施できたか」について肯定的な回答をした教職員の割合が90%以上。	●人権意識を高める人権集会等の取組の充実を図る。 ●これまでの研究成果を生かして、豊かな心を育む道徳の授業を毎週確実に実施する。	B	●平和集会や児童集会で周りの人を大切にしようと呼びかけた。児童が書いた感想は、実践に向けて頑張ろうとする気持ちをもって、いかに伝えるが、なかなか実践が伴っていない児童が見受けられることが課題である。 ●道徳の提示資料を整理し、取り組みやすい環境を整えた。	A	●児童アンケートで「人権集会や全校集会での話を通して、人権について深く考えることができていますか」について肯定的に回答した児童の割合は90.4%であった。「さん」君をつけて友達を呼ぶこと、おすめのスリッパを並べることを徹底することで、周りのことを考える行動することができるようになってきている。 ●教職員アンケートで「年間を通して豊かな心を育む道徳の授業を実施できたか」について肯定的な回答をした教職員の割合は100%であった。	A	●言葉遣いやスリッパを並べるなど基本的なことを徹底して指導されているのはよいことと思う。子どもたちにとって大切なことである。「さん」君を付けて呼び方等については、佐賀県内での統一などはあるのか。	武富(人権・同和教育) 井上(道徳教育)全学級担任
	○望ましい生活習慣、学習習慣の確立と交通安全を中心とした安全教育の充実	○児童アンケートで「早寝早起きできたか」「元氣よく挨拶ができたか」について肯定的に回答した児童の割合が70%以上。 ○児童アンケートで「家庭学習に自分で考えた目標をもって取り組むことができたか」について肯定的に回答した児童が70%以上。 ○児童アンケートで「交通安全ルールを守って登下校ができたか」について肯定的に回答した児童の割合が90%以上。 ○児童アンケートで「無言掃除に取り組むことができたか」について肯定的な回答をした児童が80%以上。	●「たろっカード」で寝た時刻と起きた時刻をチェックし、保護者の協力を得ながら指導を行う。集会等で元氣よく挨拶を呼びかけ、上手にできている児童を紹介する。 ●家庭学習への取り組み方について毎月の職員会議で情報収集を行い、児童が主体的に取り組むことができる手立てを教員間で共有する。 ●週初めに各級生のチェックと指導を行い、安全に登下校しようとする態度を養う。 ●無言で掃除に取り組むことの意義を職員間だけでなく、児童とも共有し、掃除の振り返りや、掃除の仕方の統一を行う。	●児童アンケートで肯定的に回答した児童の割合が「早寝早起きできたか」で88%、「元氣よく挨拶ができたか」で83%であったが、教師側の見取りでは十分達成しているとは言えないので、今後も指導を継続していきたい。 ●児童アンケートで「家庭学習に自分で考えた目標をもって取り組むことができたか」について肯定的に回答した児童が87.1%であったが、今後は「そう思う」を増やすように手立てを講じていきたい。 ●児童アンケートで「無言掃除ができたか」について肯定的に回答した児童が89.8%であったが、今後は掃除の仕方も統一できるように指導を継続していきたい。 ●毎週の登校班チェックの実施により、安全への意識をもって、登校班で安全に登校できる児童が増えた。指導を要する児童が固定化してきた。	A	●児童アンケートで肯定的に回答した児童の割合が「早寝早起きできたか」で88.5%、「元氣よく挨拶ができたか」で80%であった。登校班チェックや挨拶チェック関連の取組が意識化につながったと思う。 ●児童アンケートで「家庭学習に自分で考えた目標をもって取り組むことができたか」について肯定的に回答した児童が88.0%であった。職員会議等で効果的な取組を共有した点で結果につながったのではないかと考える。 ●児童アンケートで「無言掃除ができたか」について肯定的に回答した児童が90.4%であった。掃除の仕方の統一を図った。 ●児童アンケートで「交通安全ルールを守って、安全に登下校することができているか」について肯定的に回答した児童の割合が99%であった。交通安全について効果的な取組が効果的だったためと思う。	A	●児童の健全な成長がうかがわれる。しかしながら、この数年はコロナのために特殊な生活を強いられている。マスクをすることでお互いに表情が分らなくなったり、しゃべらなくなったりしてしまっているのではないかと。この先の児童の成長に不安がある。 ●あいさつは学校外でも地域のたまたまに元氣よくできるように引き続き、御指導をお願いしたい。 ●ここにはないが、多良小学校はアンケートで「学校が楽しい」と回答していない児童が目立つので、令和2年度よりは改善が図られているので、今後も児童が楽しい学校生活を送ることができるように頑張っていきたい。	小野原(生徒指導主事) 真方(清掃活動) 井上、若水(学業指導) 川浪(交通安全教育)	
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○児童アンケートで「先生は、皆さんが困ったことや悩みなどを相談したら、よく聞いてくれますか」「くれると思いますか」の項目について肯定的な回答をした児童の割合が85%以上	●いじめの早期発見につながるように、毎月「心のアンケート」を実施し、児童の心状態についての把握を児童の必要のある児童への対応を行う。 ●毎月の児童理解連絡会で児童に関する情報共有を行い、児童の変化について共通理解を図る。 ●いじめの事実関係の把握は学校として組織的な体制の下で行い、積極的認知を行う。いじめの事実を認知・認知した場合は速やかに関係機関と連携しながらいじめ対策推進委員会等で協議し、組織的に対応する。	●児童アンケートの「先生は、皆さんが困ったことや悩みなどを相談したら、よく聞いてくれますか」「くれると思いますか」の項目について肯定的な回答をした児童の割合は92.3%であった。 ●毎月、「心のアンケート」実施を踏まえて、気になる児童についての共通理解等を行うことができています。 ●いじめ事案については、迅速かつ組織的に対応し、積極的な認知とそれに伴う対応を行うことができています。	A	●児童アンケートの「先生は、皆さんが困ったことや悩みなどを相談したら、よく聞いてくれますか」「くれると思いますか」の項目について肯定的な回答をした児童の割合は93.3%であった。 ●毎月「心のアンケート」を実施し、児童の実態把握を行っている。また、その結果を踏まえて毎月の児童理解連絡会で児童の様子について共通理解を図っている。 ●いじめ事案については、迅速かつ組織的に対応し、積極的な認知とそれに伴う対応を行うことができています。	A	●児童理解連絡会は「チーム学校」に取り組んでいく上でも大切なことであると思う。気になる児童や心配な児童については、しっかりと保護者との協力も得られるように取り組んでほしい。	小野原(生徒指導主事) 山口(教育相談担当)全学級担任	
●児童生徒が夢や目標をもち、その実現に向けて自ら考えて取り組もうとするための教育活動	○児童アンケートで「将来の夢や目標を持っているか」について肯定的な回答をした児童の割合が80%以上。	●学級活動の中で年3回キャリアパスポートに取り組み、将来の夢や目標について考え、そのための行動を促すような機会を設ける。 ●学校行事や日々の生活場面で児童自身が考え判断できるような場を多く設ける。	●児童アンケートで「将来の夢や目標を持っているか」について肯定的な回答をした児童の割合は94.3%であった。 ●運動会や学年行事等、自己肯定感を高める活動後、2回目のキャリアパスポートを実施し、自分の目標や将来の夢について前向きに考える機会を設けた。	A	●児童アンケートで「将来の夢や目標を持っているか」について肯定的な回答をした児童の割合は91%であった。年間を通して、90%を超え、目標の80%を大きく上回った。 ●キャリアパスポートで、1年間の自分のがんばりを振り返り、自己肯定感を高めながら進級できる機会を設けた。	A	特になし	樋口(キャリア教育)		
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	○児童アンケートで「時間を意識してみんなで協力し、楽しく給食を食べているか」について肯定的に回答した児童の割合が85%以上。 ○好き嫌いをせずに残さず食べる児童を増やす。 ○低学年のうちから、正しい姿勢と箸の持ち方で食べる児童を増やす。教師による観察で低学年児童の80%以上。	●給食におけるスムーズな準備・後片付けと食べる時間の確保、正しい姿勢と箸の持ち方で好き嫌いをせずに残さず食べる児童を増やすこととを目標とし、毎日給食時間全教室を回って指導を行う。 ●食べる時の姿勢と箸の持ち方の指導を低学年を中心に行う。	B	●給食におけるスムーズな準備・後片付けを、食べる時間を確保する。正しい姿勢と箸の持ち方で好き嫌いをせずに残さず食べる児童を増やすこととを目標とし、毎日給食時間全教室を回って指導を行っている。箸の持ち方をもっと指導していきたい。	B	●児童アンケートで「時間を意識してみんなで協力し、楽しく給食を食べているか」について肯定的に回答した児童の割合が95%以上であった。 ●好き嫌いをせずに残さず時間内に食べる児童が、全校で増え、残食も昨年度より減っている。 ●コロナ禍の影響で指導が十分にできなかった。低学年のうちから、正しい姿勢と箸の持ち方で食べる児童を増やせなかった。	B	●日評であった理由については致し方ないと思うが、令和4年度は新型コロナウイルス感染症の状況等に終息が見られるようになるとよいと思う。 ●コロナにより、敷食などが一般化して、友達の間際しながら「楽しく給食をとる」といったようなことができない社会になっているのはかわいそうなことである。	太田(給食担当) 加田(学校栄養職員)
	○児童の心身の成長を促す体育的行事の充実	○児童アンケートで「運動会を通して、心身の成長を感じることができたか」について肯定的に回答した児童の割合が80%以上。 ○体育的行事ごとに児童対象のアンケートを実施し、行事の取組に対して肯定的に回答した児童の割合が80%以上。 ○運動会の練習期間及び練習内容の検討を必ず行う。	●運動会における異学年交流競技などのレクリエーションで児童が参加したくなるような競技を計画する。 ●平日開催を基本として、運動会の練習計画及び内容を検討する。 ●体育的行事での児童の頑張りを称賛する取組を行う。 ●体育的行事において児童会のスポーツ・安全委員会が主体的に活動できるようにする。	A	●運動会において「運動会を通して心身の成長を感じることができたか」についてアンケートをしたところ肯定的に回答した児童は95%であった。 ●体育的行事に前向きに取り組む。成長を感じた児童の頑張りが認められ、競技やマラソンでも児童が自ら取り組むかと思える実践を継続していきたい。	A	●競技大会、マラソン大会について「体育的行事を通して、心身の成長を感じることができたか」についてアンケートを実施したところ、肯定的に回答した児童は97%であった。体育的行事では、技能面の向上だけでなく、児童が心の成長も感じられるような取組を来年度も実施していきたい。	A	●新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、体育的行事の実施方法についても様々な工夫が施されていることと思うが、ぜひイベントをチャンスに捉えてほしい。工夫してよかった点については、コロナ終息後も継続することを考えてほしい。	田中(体育主任)

●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間の上限を遵守する。	これまでの教育活動を、その効果や教職員の負担を勘案して、精選する。 ・定時退勤日(毎週、金曜日)の設定と徹底を図る。 ・校務サーバーの教材フォルダに全学年の教材を集約・整理し、共有データの活用を図る。 ・校内研究のまとめの作成を年間を通じて行うことで、年度末の負担軽減を図る。 ・5Sを徹底し、効率的に働くことができる職場環境をつくる。	A	今年度も、時間外勤務時間の上限を7時までと設定し、定時退勤日を毎週金曜日と設定している。教頭・教務主任の呼びかけにより、概ね守られている。 ・校内研究は、年度当初に各個人による研究のまとめの様式・方法を提案することで、年間を通じた計画的なまとめの作成ができています。 ・事務職員が中心となり、事務室、備品庫などの整理整頓を行ったことにより、効率的に働く職場環境が確立されつつある。	A	・学期末など業務が集中する時期があること、保護者への連絡や面談を時間外に行わないといけないことなどがあるものの、時間外勤務時間や定時退勤日は概ね守られている。 ・教材フォルダの整備は現在、取組中である。 ・校務用PC立ち上げ時に「みんなの掲示板」を設定するようにして、職員連絡会等の時間短縮に努めている。 ・整理整頓については、今後も学校全体で取組を行っていく。	A	・教員の事務作業の大変さなどを実感している。教員を志望する学生が減っているという話も聞く。教員がしんどいと児童に向き合えることができるようにもっと保護者も協力すべきであると思う。	様式1(小・中)
	○職場における危機管理意識の向上	○教職員アンケートで「校務の内外を問わず、危機管理意識をもって行動しているか」について肯定的に回答した教職員の割合が100%であること、年間を通して、教職員による交通加害事故などの信用失墜行為が0であること。	・毎月末に「ゼロの日」を設定し、自らの職務を見直し、自己チェックを行うなどして、危機管理意識の維持・向上を図る。 ・危機管理ファイルを活用して、日常的に薄くも、注意喚起を行う。 ・管理職による講話、「校長便り」等で危機管理の具体について伝えるなどして意識化を図る。 ・より実効性が高い研修を実施する。	A	・教職員アンケートは100%であり、4月から教職員による事故も0件である。 ・毎月末に、自分の自動車運転や振替の振り直しを行うことで、交通事故や指導のやり方等、教職員としての危機管理意識が維持・向上に努めている。 ・夏季休業中の研修については、西部教育事務所に依頼して実施した。	A	・教職員アンケートは100%である。1月に職員の交通事故(被害)が1件あった。被害事故もできるだけ回避できるように、再度、注意を促した。職員会議や職員連絡会等で「特別支援の配慮を心掛けているか」についての具体的な指導を行い、「教職員の服務規律の保持」の全教職員による読み合わせを行うなどして、常に意識を高めるようにしている。	A	特になし	校長 教頭

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										主な担当者
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
	重点取組内容	成果指標(数値目標)		進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○特別支援教育の充実	○教員の特別支援教育に対する専門性と意識の向上	○教職員アンケートにおいて、「特別支援教育に関する専門性が向上したか」について肯定的に回答した教職員の割合が90%以上、「特別支援的な配慮を心掛けているか」について肯定的に回答した教職員の割合が90%以上。	・特別支援教育に関する研修会を2回実施し、通常学級での対応に役立つ内容を取り上げる。長期休みに講話・演習を組んだ研修を、2学期以降に実施し、3学期に検証する。 ・ケース会議を開催し、関係教職員での情報共有を密にする。	B	・夏季休業中に講話と演習を組み合わせた特別支援教育に関する研修会を実施した。個々の教員が通常学級での対応に役立つ内容を取り上げる。自立活動の充実を図る実証的取組を行っている必要がある。 ・第3学年通常学級の児童の集中力不足による学習不振を改善するため、通常学級の漢字指導に関わっている。漢字指導を通して、他の学習や日常生活においてもよい効果が表れるようにしたい。	A	・教職員アンケートにおいて、「特別支援教育に関する専門性が向上したか」について肯定的に回答した教職員の割合が100%、「特別支援的な配慮を心掛けているか」について肯定的に回答した教職員の割合が100%という結果だったので、充分達成したといえる。	A	特になし	太田(特別支援教育コーディネーター・アドバイザー) 全学級担任 坂口、松尾、野中
	○特別支援学級を中心とした特別支援教育の充実	○担当する教職員の見取りで、対象児童が落ち着いた学校生活を送ることができることを複数の職員で確認できる。 ○担当する教職員の見取りで、対象児童の集中できている時間の伸びが確認できる。 ○担当する教員の見取りで、学級の中で授業に集中できる児童が増えていることが確認できる。	・個々の児童の状況に応じて、発達障害もしくはその傾向が認められる児童の学習に対する集中力を高め、学習効果を高める取組を行う。 ・特別支援学級児童への効果的な支援と自立活動の充実を図る。 ・通常学級の児童の不注意による学習不振を改善するため、通常学級の漢字指導に関わる。	A	・特別支援学級に所属する児童への効果的な支援を日々実践している。特に1年生に対しては大きい効果を出している。自立活動の内容を充実させる必要がある。 ・第3学年通常学級の児童の集中力不足による学習不振を改善するため、通常学級の漢字指導に関わっている。漢字指導を通して、他の学習や日常生活においてもよい効果が表れるようにしたい。	A	・特別支援学級に所属する児童が、落ち着いた学校生活を送るようになった。特に1、2、3年生に対しては大きい効果を出している。通常学級の漢字指導の充実を図る必要がある。 ・漢字指導に関わった結果、文字の習得や字形の美しさについては保護者からもよい返事が届いた。他の学習や日常生活においてもよい効果が表れ出した。	A	・授業参観などを通して、とてもいい指導を行っていることが分かった。学力向上や不登校の未然防止などの礎として特別支援教育の充実は大切であると思うので、引き続き頑張りたい。	太田、小野原、武富 坂口、松尾、野中
○特別活動の充実	○各学級における学級活動(話し合い活動・実践・体験活動)の充実	○学級会(話し合い活動)を代表委員会への話し合いを含めて下学年は6回、上学年は8回以上行う。 ○児童アンケートで「学級会に進んで参加したか」について肯定的に回答した児童の割合が80%以上。	・学校全体で、学級会の進め方、学級会グッズ等を活用して、会の流れを統一し、共通実践を行う。 ・各クラスで学級会コーナーを設け、学級会の実践を視覚的に振り返ったり、共有しあったりできるようにする。 ・教師間で議題や取り組みの工夫などを共有する機会を設け、学級活動の内容の充実を図る。(年に2回程度)	A	・学級会グッズを配付し、会の流れを統一するなどの共通実践を行ったことで、児童が自主的に学級会活動に取り組むことができた。 ・学級会コーナーでは、話し合った内容を掲示し、話し合いを振り返ることができた。 ・教師間で前期の取組のアンケート形式で共有し、2学期以降の取組に生かせるようにしている。	A	・児童アンケートで「学級会に進んで参加したか」について肯定的に回答した児童の割合は、約90%であった。昨年度の85%から5ポイント上がり、学級会へ積極的に参加している児童の割合が増えている。 ・教師間で1年間を取り組んだ議題や取組の工夫について共有し、来年度の学級会の質の向上につなげた。	A	・子ども主体の活動を大切にしていると思う。	樋口 (学級活動) 全学級担任
	○児童会の委員会活動の活性化	○児童の年間振り返りカードの自己評価で「よくできた」(◎)と評価した児童の割合が80%以上。	・振り返りカードを用いて、振り返り活動(自己評価)を充実させる。振り返りカードの内容が分かるようにする。 ・全児童に学期ごとに委員会へのメッセージを書いてもらい、掲示することで活動に対する正のフィードバックを行う。	A	・児童は毎月の活動や前月の振り返りを生かして活動することができている。 ・振り返りへのコメントの記入を担当の先生方に呼びかける。 ・全校児童から委員会への感謝のメッセージを校内に掲示することができた。 ・2月に同様のメッセージカードの取組を行い、1年間の労を労う予定である。	A	・各委員会は、毎月の振り返りを生かして児童会目標の達成に向けて工夫した活動に取り組むことができた。アンケートでは98%の児童が「よくできた」「できた」と答えた。(4段階で3.63) ・全児童から委員会への感謝のメッセージを年間2回掲示し、また、児童総会で紹介した。委員会活動への意欲の喚起につなげることができた。	A	特になし	樋口(委員会活動) 大石(児童会活動)
○地域・保護者に開かれた学校づくり	○学校によさや取組の発信	○平均、週に3回以上の学校ホームページのお知らせ、イベント・学校便り等の更新を行う。 ○年間を通して、50号以上の学校便りを発行する。 ○各ページの閲覧件数を平均100件以上にする。	・学校ホームページを通して、適時に学校の情報を発信する。 ・学校便りや学校取組、児童の頑張りを家庭・保護者に伝える。 ・学校の安心メールから学校HPへのリンクを設定し、特に必要な情報については学校HP閲覧に結び付けるようにする。	A	・イベントギャラリーの更新回数112回(週平均4回)、学校便りは26号を発行している。(11月20日現在)学校の教育活動を家庭・保護者に発信することができている。学校HPの認知度もいっぶん上がり、閲覧数も全体的に前年度を上回っている。 ・安心メールからのリンクはまだ実施していない。	A	・イベントギャラリーの更新回数182回(週平均4.6回)、学校便りは37号を発行している。(2月24日現在)学校の教育活動を家庭・保護者に発信することができている。学校HPの認知度もいっぶん上がり、閲覧数も前年度を上回っているが、閲覧件数平均100件以上は達成できていない。	A	・学校のことがよく分かるのでとてもよいと思う。これからは保護者や地域への情報発信に努めてほしい。	校長 教頭

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育									
5 総合評価・次年度への展望	・今年度も全項目でほぼ目標を達成することができたと考えているが、個々に見ていくと今後の質的な改善を図る余地がある項目も見受けられるので、次年度はさらなる向上を目指したいと考えている。 ・次年度も、目指す方向性は大きく変えることなく、児童の自己有用感を高め、着実な学力向上を図ることで、児童にとっての「楽しい学校」を目指していきたいと考えている。								